

東京都建設局、（公財）東京動物園協会と同時発表しています

# オガサワラカワラヒワ・初孫誕生！！

（NPO法人）小笠原自然文化研究所（理事長 堀越和夫）では、種の保存法（環境省）の保護増殖事業に基づく生息域外保全事業の一環として、東京都、（公財）東京動物園協会と連携を図りながら、父島でオガサワラカワラヒワの飼育に取り組んでいます。このたび、父島で、合計9羽のヒナが誕生しました（当研究所の新飼育施設で3羽、東京都の父島施設で6羽）。すでに、東京都の施設では6月10日までに無事に2羽が巣立ちました。これらのヒナは、昨年度、当研究所事業及び、東京都事業における飼育下繁殖個体を組み合わせたペアから誕生した、本種はじめてのF<sub>2</sub>世代（飼育下繁殖個体を両親に持つ子供）となりました。引き続き多様な関係者との連携を進めながら、オガサワラカワラヒワの絶滅回避に取り組んで参ります。



【初のF<sub>2</sub>世代のヒナ 2026年6月18日撮影】

## 1. 経緯

NPO法人小笠原自然文化研究所\*<sup>1</sup>は（一社）Islands care\*<sup>2</sup>とともに、小笠原諸島のみで生息する固有鳥類オガサワラカワラヒワの絶滅を阻止するために、計2回のオガサワラカワラヒワ保全計画づくりワークショップ\*<sup>3</sup>を開催し（2020年12月、2025年1月）、絶滅回避のための行動計画を提案してきました\*<sup>4</sup>。さらに、行動計画に掲げられた、絶滅回避のための官民の垣根を越えた情報共有および横断的な保全対策の実現、島内外の連携拡大にも全力を傾けてきました\*<sup>5</sup>。特に、2021年7月より東京都の父島における域外保全事業を受託して、前例のないオガサワラカワラヒワの飼育に取り組んできました。この間、生息域内では、最大課題とされる繁殖地の外来ネズミ対策等が進められてきましたが、近年の気候変動等もあり一刻の猶予もない絶滅の危機が継続していました。そこで、小笠原自然文化研究所では、環境省保護増殖事業を補完拡充すべく、同事業の一環として、研究者の立場で域外飼育を開始しました\*<sup>6</sup>。独自事業では、東京都、恩賜上野動物園との緊密な連携を軸に、小笠原動物協議会\*<sup>7</sup>、森林総合研究所、NPO法人どうぶつたちの病院沖縄\*<sup>8</sup>等の多様なサポートと小笠原村住民の協力を得て進めて参りました。これらの連携、協働に支えられ、2025年には本種で初めて飼育下の繁殖に成功しました。さらに、小笠原自然文化研究所では、第2回ワークショップでの提案に沿い「繁殖ペア数を増加させる」ために、民間助成金（JAC環境動物保護財団\*<sup>9</sup>）を得て、2026年から新たに2つの飼育施設を建造して、飼育に取り組みました。その結果、新施設の飼育舎2号\*<sup>10</sup>で1ペアから産卵・孵化を確認し、旧施設（飼育舎1号）のペアでは交尾行動が確認されています。新たに別途設置した稼働式のミニトレーラーハウス型の飼育舎3号\*<sup>11</sup>では、巣立ち個体の継続飼育等を試みる予定です。なお、父島内の東京都施設で誕生したヒナは、飼育下繁殖個体（F<sub>1</sub>）のペアから生まれた初めてのF<sub>2</sub>世代となり、オガサワラカワラヒワの域外保全ステージにおける大きなステップアップとなりました。

## 2. 父島内で飼育中の鳥

オス6羽、メス4羽、性別不明のヒナ9羽（飼育場所：東京都父島飼育施設、小笠原自然文化研究所飼育施設）

### 【問い合わせ先】

（NPO法人）小笠原自然文化研究所

オガヒワ飼育チーム（神門英夫・堀越宙・飴田洋祐・鈴木 創）

窓口：鈴木・堀越・飴田 電話 04998-2-3779 / 080-2035-8078 [i-bo@ogasawara.or.jp](mailto:i-bo@ogasawara.or.jp)

### 3. 産卵と孵化の状況

#### ・小笠原諸島父島

小笠原自然文化研究所 飼育施設

飼育ペア1 2026年5月30日～ 産卵（計4卵）  
6月14～16日 孵化の確認（3羽孵化）

飼育ペア2 2026年6月18日までに、交尾行動を確認

東京都父島飼育施設

飼育ペア1 2026年5月6日～ 産卵（計4卵）、孵化の確認（4羽孵化、後に2羽死亡）  
6月9日 巣立ちを確認（1羽）  
6月10日 巣立ちを確認（1羽）

飼育ペア2 2026年6月4日～ 産卵（計4卵）  
6月19日～21日 孵化の確認（4羽孵化）

・島外施設でも、飼育下生まれ同士のペアの繁殖に成功しています。

恩賜上野動物園 2026年6月 巣立ちを確認（3羽）

### 4. 国内の飼育状況

父島 19羽（2026年生まれの9羽を含む）

恩賜上野動物園 8羽（2026年生まれの3羽を含む）

### 5. 公開及び取材について

公開の予定はありません。また、飼育舎内の取材はできませんのでご了承ください。

#### 【参 考】

#### ●オガサワラカワラヒワ（スズメ目 アトリ科）

（環境省レッドリスト：CR（絶滅危惧ⅠA類））

学 名 *Chloris kittlitzii*

英 名 Ogasawara Greenfinch

分 布 東京都小笠原村の一部

生態等 全長は140mm。翼の黄色い斑点と大きなくちばしが特徴です。外見は本土に生息するカワラヒワに似ていますが、翼や尾がやや小さく、くちばしが相対的に大きく、小笠原諸島だけに生息する鳥（小笠原諸島固有種）です。種子食で、時期に応じて多彩な植物の種子を食べますが、近年は外来種であるトクサバモクマオウの種子を多く食べていることが確認されています。外来のネズミ類やノネコ、気候変動などによる餌資源の枯渇、渇水などの影響により個体数が急激に減少しており、現在ではあと200羽ほどしかいないと推定されています。

#### 【注 釈】

\*1：2000年に誕生した小笠原のNPO法人。小笠原諸島の独特な自然や歴史・文化の情報収集と発信、また調査研究を通じた保全と持続的利用への寄与など様々なプロジェクトを実施中。 <http://www.ogasawara.or.jp/ibohome/>

\*2：小笠原諸島をフィールドとして、自然環境保全に取り組む一般社団法人。中でも絶滅が危惧されるオガサワラカワラヒワの調査や生息環境保全のため、様々なプロジェクトを実施。 <https://www.islandscare.org>

\*3：オガサワラカワラヒワ絶滅阻止限界点への挑戦。 <https://ogasawara-kawarahiwa.jimdo.com>

\*4：特集 オガサワラカワラヒワ保全計画づくりワークショップ（2021）. Ogasawara Research No.48 (FY 2021).

[https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=custom\\_sort&search\\_type=2&q=1701390176003](https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=custom_sort&search_type=2&q=1701390176003)

- \*5 : オガヒワ未来作戦レポート～ワークショップだヨ 全員集合～. 小笠原くざいもんチャンネル  
<https://www.youtube.com/watch?v=unlN45FSmCw>
- \*6 : オガヒワ飼育ノート. 小笠原自然文化研究所HP. <http://www.ogasawara.or.jp/ogahiwa/>
- \*7 : 小笠原動物協議会 オガヒワ飼育の獣医療サポート. [https://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/kankyo/kankyo\\_kyougikai/](https://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/kankyo/kankyo_kyougikai/)
- \*8 : どうぶつたちの病院沖縄. 希少種域外飼育知見のサポート. <https://www.yanbaruquina.jp/>
- \*9 : 公益財団法人 JAC環境動物保護財団. 飼育繁殖施設の建設・設置への助成. <https://jac-foundation.org>
- \*10 : IBO飼育舎2号. 建築/浅谷健生. 特殊空調/ガッツクリエイティブサービス. <https://gutz.jp>
- \*11 : IBO飼育舎3号. トレーラーハウスデベロップメント株式会社. 特注ミニトレーラーハウスの製作 <https://www.trailer-house.co.jp> 小笠原村との協働で、同ハウスを島内に設置・運用。